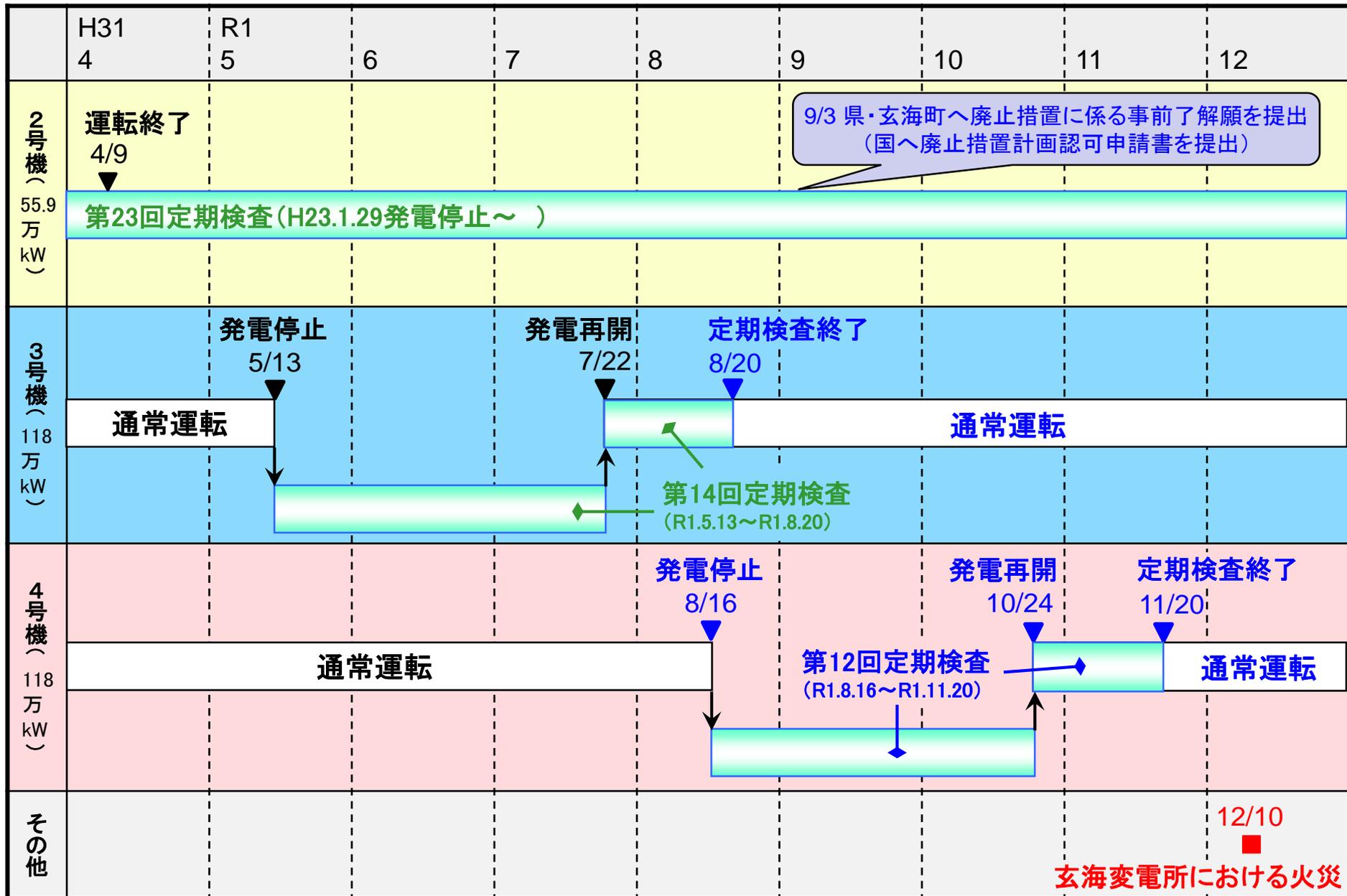


# 玄海原子力発電所の運転状況等について (平成31年4月～令和元年12月)

令和2年1月29日  
原子力安全対策課

# (1) 経過 (平成31年4月～令和元年12月)



## (2) 2～4号機の発電状況(平成31年4月～令和元年12月)

	2号機※1	3号機	4号機	合計
電気出力 (MW)	559	1,180	1,180	2,919
発電電力量 (億kWh)	0	58.5	58.1	116.6
利用率※2 (%)	0	75.1	74.6	74.3

※1 平成31年4月9日に運転終了

$$\text{※2 利用率} = \frac{\text{(発電電力量)}}{\text{(暦時間)} \times \text{(設備容量)}} \times 100(\%)$$

### (3) 1号機の廃止措置の実施状況

#### ①第1段階(解体工事準備期間)の進捗状況

	H31 4	R1 5	6	7	8	9	10	11	12
1号機									
	汚染状況の調査(H29.8.29～)								
	汚染のない設備の解体撤去(H29.11.1～)								

#### ②解体撤去物の発生状況(令和元年12月末時点)

種 類	発生量(トン)		処分量(トン)		期末保管量 (トン)
	4月～12月	累計(※)	4月～12月	累計(※)	
金属類	69.9	602.0	69.9	602.0	0
コンクリート類	0	0	0	0	0
その他	3.4	17.7	3.4	17.7	0

※廃止措置開始(H29.7)以降の発生量

## (4) 燃料輸送等の状況(平成31年4月～令和元年12月)

### ① 新燃料(取替用燃料)の搬入

該当なし

### ② 使用済燃料の搬出

該当なし

### ③ 低レベル放射性廃棄物の搬出

該当なし

## (5) 放射性廃棄物の管理状況(平成31年4月～令和元年12月)

### ① 気体・液体廃棄物の放出量

種 類	放出量 (ベクレル)	放出管理目標値 (ベクレル/年)
気体廃棄物	$3.0 \times 10^9$	$1.6 \times 10^{15}$
液体廃棄物	定量限界未満(※)	$1.1 \times 10^{11}$

(※) 定量限界未満: 測定の結果、放射性物質の量が検出できる下限値未満

### ② 固体廃棄物の保管量(令和元年12月末時点)

	貯蔵量(本) (200リットルドラム缶相当)	貯蔵設備容量(本) (200リットルドラム缶相当)
原子炉施設合計	39,894	約49,000

## (6) 事故・故障等の発生状況

### ① 安全協定第6条に該当する事故・故障

玄海原子力発電所内の玄海変電所における火災について

➡ 令和元年12月10日発生。詳細は資料4-4で説明。

### ② 保全品質情報 [ 法令及び安全協定上報告の必要は無いが、電力会社や産学官 で共有することが有益な原子力発電所の保守・運営情報 ]

玄海3号機におけるプラグングデバイスの変形について

➡ 令和元年6月21日発生。(前回の協議会で報告済み)

### ③ その他の情報 [ ①、②に該当しない事象ではあるが、発生について九州電力が 公表したもの(発煙等) ]

該当なし